

日照不足と長雨に対する農作物の技術対策について

令和2年7月10日

農林水産部担い手支援課

銚子地方気象台によると、千葉県では、6月25日頃から、曇りや雨の日が多く、日照時間が少なく、降水量の多い状態が続いています。この状態は、今後2週間程度は続く見込みです。ついては、次の事項を参考に、技術指導に努めてください。

1 全般

病害の発生が心配されることから、雨の合間を縫って、その日のうちに乾くように殺菌剤を散布するなど、適切な防除に努める。

施設園芸では、被覆資材をきれいにし、遮光の開け閉めをこまめに行い、日照量を確保する。

2 水稲

「いもち病」の感染しやすい条件となっているため、ほ場をよく観察し、発病を確認した場合は速やかに治療効果のある薬剤防除を実施する。

3 大豆

(1) 長雨による浸水や冠水などの湿害を回避するため、排水対策を徹底する。特に水田転換畑では、額縁明渠を確実に排水路につなげる等の排水対策を必ず行う。

(2) 出芽時に土壌水分が高いと、苗立ち不良やその後の紫斑病などの発生につながるのので、種子消毒や適正な播種深度（3cm程度）など、基本技術を励行する。

(3) 湿害による苗立ち不良で再播種を行う場合は、播種時期が遅くなって生育量が不足するので、できるならば播種量を増やして栽植密度を高める。

4 野菜

(1) 野菜全般

日照不足による生育の遅れや茎葉の軟弱徒長に対しては、葉面散布を行う。また、病害の発生が多くなることが予想されるので、罹病葉や黄化葉、罹病株を早期に除去し、発生初期からの防除を徹底する。なお、日照不足時は葉害が出やすいので、農薬散布濃度に留意し、高温時の散布を避ける。

育苗中のものは、苗鉢等の間隔を十分にとり通気性を確保する。セル育苗ではかん水や追肥を控えめにすることにより、徒長防止に努める。

着果している野菜は、草勢を維持するために不良果の摘果を行い、株の着果負担を軽くする。

(2) 施設野菜

施設内の湿度の高い空気が滞留しないよう換気し、可能な場合は循環扇を利用する。

軟弱な生育をしている場合、曇雨天後の強光による葉や果実の焼けを防止するため、遮光資材を準備し、きめ細かな遮光に努める。

追肥は1回当たりの施肥量を少なくし、多回数での施用を心掛け、特に窒素過多にならないように注意する。

罹病果や葉、花卉を残さないように徹底して取り除くとともに、早めの下葉除去や適度な摘葉による通気性確保を図る。

5 ナシ

黒星病、輪紋病については、果実への感染期となっているので、防除を徹底するとともに罹病葉、罹病果実の除去に努める。薬剤の散布については、ムラのないように丁寧に散布する。なお、収穫期まで期間がないので薬剤については必ず収穫前使用日数、総使用回数を確認して使用する。

園の排水に心がけ、滞水した場合は速やかに排水を図る。